

物事を決めるとき

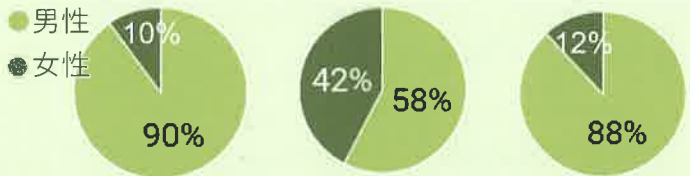
今度の文化祭はどんな企画にしますか

色々な人の色々な意見で決めていこう



皆さんの中学校では、性別に関係なく生徒会に立候補し、性別に関係なく役員を選ぶことに違和感はないかもしれません。では、会社や地域、政策決定場ではどうでしょうか？

衆議院議員 多摩市議会議員 企業の管理職



(2018年6月) (2018年7月) (2017年度)
列国議会同盟(IPU) 多摩市公式ホームページ 厚生労働省「平成29年度雇用均等基本調査」

中学校では活躍していた女性も、社会のなかではまだまだ活躍の場が少ないのが日本の現状です。

考えてみよう



なぜ政治家や管理職の女性比率が少ないのか考えてみよう。

調べてみよう



働くことと子どもを産み育てることの両立を支援する取組みにどのようなものがあるか調べてみよう。

12個の円形アイコンが、性別に関係なく好まれるべき活動や属性を示しています。

- 社交的
- 人見知り
- せっかち
- おっとり
- 勉強が好き
- スポーツが好き
- ピアノが好き
- 料理が好き
- ひとりでいるのが好き
- みんなで遊ぶのが好き
- 寂しがりや
- 負けず嫌い

多摩市は、「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」のもと、性別や性的指向・性自認にかかわらず、誰もが自分らしく生き、活躍できる社会を目指しています。

男女平等参画についてもっと知りたくなった人は

- 図書館やTAMA女性センターライブラリーを利用して、男女平等参画に関係する本を読んでみる。
- TAMA女性センターが開催する講座やイベントに参加してみる。
- 不安な気持ちやもやもやした気持ちを友達以外の誰かに聞いてほしいときはTAMA女性センターに相談してみる。

詳しくは、TAMA女性センターへ
多摩市関戸4-72ヴィータ・コミュニネ7階
TEL 042-355-2110

中学生が男女平等参画を考えるためのリーフレット

問題です。この二人の関係は？

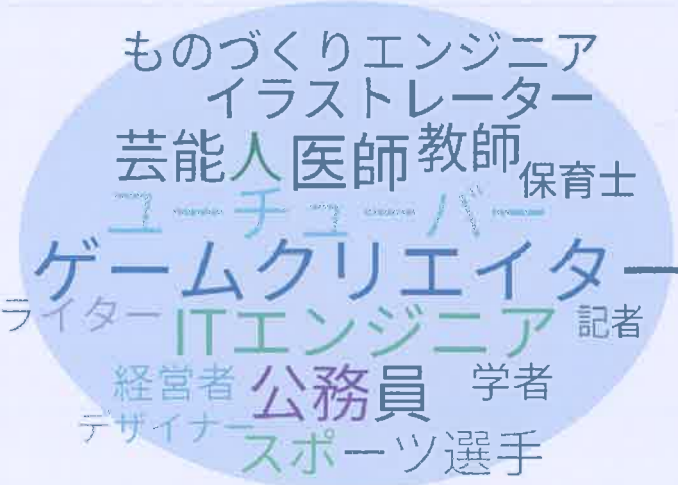


- 1 パパ友
- 2 学生時代の友人
- 3 子どもを抱くパパとショートカットのママ
- 4 子どもを育てる同性カップル
- 5

考え方のポイント

この二人の関係は会社の同僚かもしれないし、パパ友かもしれません。学生時代の友人かもしれないしご近所さんかもしれません。子どもを育てる同性カップルかもしれません。大切なのは、自分の思い込みで決め付けないことです。このことが、一人ひとりの違いを認め、お互いに尊重するための第一歩です。

中学生に人気のある職業は・・・



ソニー生命保険株式会社「中高生が思い描く将来についての意識調査2017」を基に作成

仕事を決めるポイント

個性 希望 適性 興味

以前は「看護婦」「保母」「スチュワーデス」のように性別を意識して呼ばれていた仕事も、現在は「看護師」「保育士」「客室乗務員」と性別中立的な呼び方が一般的になっています

働き方も生き方も多様化している時代。「男だから」「女だから」ではなく、自分の個性や希望、適性、興味に沿ってキャリア設計してみましょう。

読んでみよう



村上龍
『新13歳のハローワーク』
(幻冬舎、2010年)



LGBTって何？

LGBTとは、L(レズビアン)・G(ゲイ)・B(バイセクシュアル)・T(トランスジェンダー)の頭文字をとったもので、セクシュアル・マイノリティの人を指す言葉として日本のみならず世界各国で広く使われています。

L(レズビアン) 同性が好きな女性
 G(ゲイ) 同性が好きな男性
 B(バイセクシュアル) 同性も異性も恋愛対象になる人
 T(トランスジェンダー) 心と体の性に不一致を感じる人

同性を好きになる人や性別に違和感のある人の割合は、**13人に1人**とされています。(電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2015」より)

また、性的指向や性自認は、自分の意志で変えたり、選んだりできるものではありません。

LGBTの権利と尊厳

歴史の中では迫害されたり、いない存在とされたりしてきたLGBTですが、近年になって、同性パートナー同士での婚姻を認める国も出てきました。アンケートなどの性別欄に「男性」「女性」のほかに「その他」や「回答を希望しない」という項目を設ける配慮も広がってきています。

LGBTへの理解がある(LGBTフレンドリーである)ことを示すために、右のようなレインボーカラーを用いることもあります。



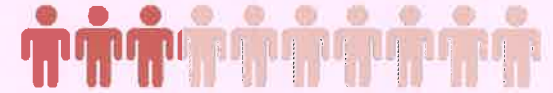
考えてみよう



トランスジェンダーの当事者が日常生活で困っていることはどのようなことか考えてみよう。

DV・デートDVとは？

結婚相手からの暴力をDV(ドメスティック・バイオレンス)、恋人からの暴力をデートDVといいます。結婚相手からDVを受けたことがある女性は31.3%(約3人に1人)という調査結果もあります。



(内閣府男女共同参画局「平成29年度男女交際における暴力に関する調査」より)

暴力＝殴る・蹴るに限らない！

恋人のスマホをチェックする、友達と遊ぶなと言う、大きな音を立てて相手をびっくりさせる、無視をする、怒鳴る・・・こんな行為も暴力です。女性から男性への暴力もあります。

なぜDVが起こるの？

「力を使って相手を支配していい」

「暴力で問題を解決していい」

という間違った思い込みがあることが一因です。

身に付けてほしいこと

将来、DV・デートDVの加害者にも被害者にもならないために、暴力以外の方法で問題を解決する習慣を身に付けておくことが大切です。



調べてみよう



アサーティブ・コミュニケーション(相手を尊重した自己表現)、アンガーマネジメント(気持ちをコントロールする)など、自分の気持ちも相手の気持ちも大切にする方法を調べてみよう。